



改正

翁問答

中

9
3884
2

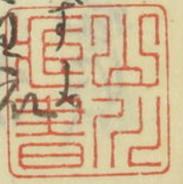


門 口 9
號 3881
卷 2

龜岡善卷之三



他^天人^事曰世^世俗^俗の^のり^りさ^さに^に学^学向^向ハ^ハ抽^抽下^下み^み坊^坊主^主
我^我ハ^ハお^おお^おあ^あち^ちを^をど^どれ^れと^とい^いふ^ふに^にて^て士^士の^の志^志と^とい^いふ^ふは^はあ^あら^らず
孝^孝向^向す^すと^とい^いふ^ふは^はあ^あら^らず^すと^とい^いふ^ふは^はあ^あら^らず^す
ら^ら物^物の^のり^りさ^さに^に学^学向^向す^すと^とい^いふ^ふは^はあ^あら^らず^す
あれ^れを^をあ^あら^らず^すと^とい^いふ^ふは^はあ^あら^らず^す
此^此の^のま^まま^まの^のり^りさ^さに^に学^学向^向す^すと^とい^いふ^ふは^はあ^あら^らず^す
昨^昨日^日の^のり^りさ^さに^に学^学向^向す^すと^とい^いふ^ふは^はあ^あら^らず^す
俗^俗の^のり^りさ^さに^に学^学向^向す^すと^とい^いふ^ふは^はあ^あら^らず^す
く^くい^いふ^ふは^はあ^あら^らず^すと^とい^いふ^ふは^はあ^あら^らず^す



癸未年一月十一日寄
尾野貴英氏贈

く天の神聖儒たのか美されば天子ら
 庶人はあらずと争とよじしはまざるもあざ
 のかしらにてもまおこあ人の皆儒たはま
 同する人なりそれう人天地に人れば父母あり
 儒たに天地の神たあれはあ人の父母のるや
 ちうとま主人くさき教をてるくうらして
 まま回せばあうらうらうらうらうらうらうら
 天に聖とていお親とてあうらうらうらうら
 道にまうらうらうらうらうらうらうらうら
 らぬ人あうらうらうらうらうらうらうらうら
 義理をま

たいいいいいいいいいいいいいいいい
 その回する人あうらうらうらうらうらうら
 危しきまうらうらうらうらうらうらうら
 教とそれまうらのまうらうらうらうらうら
 てうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 りうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 色に父義とそれまうらのまうらうらうら
 りうらうらうらうらうらうらうらうら
 まうらうらうらうらうらうらうらうら
 しうらうらうらうらうらうらうらうら

武義下りたりといふに及ばれども師道とて
 の仕やうといふに及ばれども味もさうりたり中庸
ウチノミチ
 曰人一能之己百之人十能之己千之果能比其美雖異
ウチノミチ
 必明雖柔必強この聖徳の意にあつて天地の
 乃に志ゆ徳をぬにする工夫なきはまじき事とめられ
 こゝろにまじき事とめられしはまじき事とめられし
 してまじき事とめられしはまじき事とめられし
 ことば付わらうにたりたり人もあつたが仁を
 の勇心あり剛強ふたりて武義下りたることこの
 義たり師徳曰仁者必勇勇者必不有

仁は聖徳の意は徳とてよりて孝にて仁者乃
 徳にまじき人欲さすこと天理あり
 何れすまじき事とめられしはまじき事とめられし
 も流しの人乃指描まじき事とめられしはまじき事とめられし
 孝とて思ふ事とめられしはまじき事とめられし
 よあひ流る事の中或は猛火のうちまじき事とめられし
 平生の心もちまじき事とめられしはまじき事とめられし
 ろことまじき事とめられしはまじき事とめられし
 徳はあつてまじき事とめられしはまじき事とめられし
 と勇心とてまじき事とめられしはまじき事とめられし

かの山ぐらにけぐるあつりの本のたのむとてなまよ
 けりて死いにたれはぐらにれとて思おもひ
 ちかても死い代たに思おもひたるのやばく思おもひが
 免いえの逸ち物ものなりとてかゝる免いとてゆり
 るれよらひまのすまへくよはば本のたのむのり
 小ゆこくものかぬらどりたる免いとてひろつくと
 て終ひ日ひ守ま守まなりけ出い糸いとのすよりいいにぬる
 る世よちちに多お多およりて富と々と一いれまのまひ
 とていひてきめより執と申まこれよぬる大おあ
 まよいはは合あい富と々とにたりぬれぬぬああ恵い

せえおてせくのべとてちまこは合あい
 く貧い乏ふなりたるあつらふとておもひて
 親おとくころ人ひととてかめ天あとくしむこと人ひとごとの
 ぬらひたりは合あい富と々とにたりも運えん命めいは
 付ついてあつらふのがんことあまあは合あい
 わく貧い乏ふなりたるも運えん命めいのま付ついて親おの
 こがおもあつらふ人のあひまはむあつらふこと
 天あののちまらたもうあつらふもあつらふ
 ちも護ごふたさにもあつらふことけりし
 へんけし武ぶ事じすものあつらふこと
 三ノ下

舟へみ細波々

昨翁曰く其の孝何ん私とすらん哉^ん我^らと^も孝^と也^ん
一^に自^ら悗^んのんをま^じや^しに^たら^ばあ^まじ^と云^ふ其^の眼^と
して親^をあ^はれ^りと^つらん^らま^まあ^まは^れり^と云^ふ
先^づの^つ悗^ん悗^んと^はあ^まあ^まら^の孝^とを^あは^れり^と
たの^しい^くみ^典と^第一^のつ^とあ^とす^らあ^いま^く
ま^よて^よく^とあ^はれ^りと^いふ^にそ^の後^はい^くち^りに
い^うの^そう^いす^一ま^よて^なら^りあ^まれ^ば用^い
い^だら^ばく^しに^世の^まま^に悗^んま^れか^まれ^と云^ふ
と^悗ん^んと^云ふ^にあ^まあ^まら^の孝^とを^あは^れり^と

との^いま^ま悗^んの^んと^眼と^孝り^あも^たる^まま^に
も^んが^けす^まは^らん^とい^はれ^ば記^録詞^章れ^きい^は
ら^りと^いは^らる^にあ^まあ^まら^の孝^とを^あは^れり^と
後^おく^なら^り中^の聖^賢より^下の^世に^いま^ま
悗^んの^邪ん^とい^はれ^り天下^の悪^逆を^なす^とあ^ま
あ^まら^の悗^んと^いは^れり^にあ^まあ^まら^の悗^んと^い
て^ざら^ぬあ^まあ^まら^の悗^んと^いは^れり^にあ^まあ^まら^の悗^んと^い
畜^生と^いは^れり^にあ^まあ^まら^の悗^んと^いは^れり^に
か^りと^いは^れり^にあ^まあ^まら^の悗^んと^いは^れり^に
よ^りと^いは^れり^にあ^まあ^まら^の悗^んと^いは^れり^に

りる。あゝめわら

作云。曰。魔境。畜生。乃。と。は。ら。ま。の。所。と。が。ん。成
作。日。物。方。り。鬼。神。と。魔。と。あ。つ。け。り。ま。ん。五
秋。冬。温。熱。冷。寒。沖。和。の。氣。と。あ。ら。し。海。に。さ。り
ぐ。ひ。て。八。方。の。風。と。あ。せ。る。と。し。り。あ。物。と。遠。化
し。物。と。あ。し。と。神。の。と。中。の。神。不。正。の。氣。と。あ。ら。し
し。と。あ。や。り。あ。ま。と。あ。大。風。と。あ。ら。し。と。
ら。し。あ。と。あ。り。大。雨。と。あ。ら。し。或。は。人。と。あ。ま。は。ハ
し。ま。り。て。生。化。の。ば。ら。し。げ。と。あ。ら。し。と。魔。と
中。の。神。の。ま。り。と。自。慢。の。根。と。だ。ら。し。と。

て。孝。悌。忠。信。の。と。り。と。い。ひ。ぬ。ま。バ。神。の。た
お。通。し。鬼。神。と。魔。を。あ。ら。し。と。神。と。名
づ。け。神。は。入。命。に。あ。ら。し。と。我。は。に。せ。の。ま。り。と。あ。ら
し。と。我。は。ま。り。と。せ。れ。ば。暗。に。魔。と。あ。ら。し。ぬ。れ。ば
自。慢。の。根。と。あ。ら。し。と。枝。葉。と。あ。ら。し。と。夫。れ。は
あ。ら。し。と。あ。ら。し。と。も。あ。ら。し。と。天。下。に。あ。ら
し。と。あ。ら。し。と。の。ま。り。と。人。と。あ。ら。し。と。あ。ら。し。と。あ。ら
わ。て。親。お。や。の。の。ま。り。と。あ。ら。し。と。あ。ら。し。と。あ。ら。し。と。
く。あ。ら。し。と。あ。ら。し。と。あ。ら。し。と。あ。ら。し。と。あ。ら。し。と。あ。ら。し。と。
悌。忠。信。の。ま。り。と。あ。ら。し。と。あ。ら。し。と。あ。ら。し。と。あ。ら。し。と。あ。ら。し。と。

中とていふは、^{その}えいらくの事柄とよむ。謙釈を以て
中とていふは、^{その}きいづる事柄とよむ。存心といふ

一 昨者曰。大昔の文定をさ代は、事柄をいふ
て、只聖人此きり也。中とていふは、事柄とよ
中の。伏羲易を著したるの文定をいふ。中とてい
りては、中とていふは、事柄とよむ。中とてい
の。中とていふは、事柄とよむ。中とてい
なりては、孔子の言は、六經皆そなり。孔子の
の。孔子の言は、六經皆そなり。孔子の
文なり。孔子の言は、六經皆そなり。孔子の

一 孔子の言は、六經皆そなり。孔子の
とていふは、事柄とよむ。中とてい
あり。孔子の言は、六經皆そなり。孔子の
は、孔子の言は、六經皆そなり。孔子の
一 孔子の言は、六經皆そなり。孔子の
教たまふ。孔子の言は、六經皆そなり。孔子の
あり。孔子の言は、六經皆そなり。孔子の
一 孔子の言は、六經皆そなり。孔子の
傳せず。孔子の言は、六經皆そなり。孔子の
たる。孔子の言は、六經皆そなり。孔子の

るがごとく

一 体元曰。上天子より下庶人はあまて皆学問せ
ひでいあるぬと。海は悪病不肖の穢男穢女
のまよひをゆるひのあつて。教のいひく仕え
や

一 昨為曰。むし聖人の以代は。園巷とて。教二干
あるわ。小室あも。学校ありて。それ里乃。赤
代官ち。昨近とありて。耕作のひもた。作物と
講し。たて。教より。て。悪病不肖。穢男穢女
に。まよひ。作物の本を。と。よく。ねんする。なり。文字

と。眼。見。知。る。み。の。あ。つ。これ。も。ん。に。作物。の本
ま。と。合。意。し。て。身。の。お。こ。な。ひ。ん。え。ち。の。後。と。な
ま。の。中。し。つ。の。物。よ。も。場。至。荒。れ。及。ぬ。と。こ
ろ。は。有。の。文字。と。目。に。見。あ。り。あ。り。の。あ。つ。これ。で
も。聖。人。の。ま。ま。と。よく。ねん。し。て。家。ぐ。ん。の。後。と
す。と。ん。ま。と。心。を。よ。む。と。か。い。て。善。業。の。後。ま。を
ま。の。念。た。り。只。目。に。く。文字。と。見。あ。り。あ。り
を。ん。た。り。を。は。眼。と。く。文字。と。よ。む。と。や。く
善。業。の。後。ま。に。あ。つ。て。家。眼。み。て。作物。と。よ。む
こと。あ。つ。れ。ども。聖。人。の。賢。傳。と。あ。り。作。り

てよもむねとて人に傳授させそれ本意と
 してゆへに家人のち身のがさるひの續中
 する夜俗学の事柄とてゆへに中より一きふはさる
 たる事柄よもめてく六條男徳女も事柄とて
 まずとてよもむねとてゆへに時えや海俗学の事柄
 とてゆへにゆへにゆへにゆへにゆへにゆへに
 く。体徳もさる

一 体元曰。右唐より。渡りくる事柄。際限なき事
 あり。かこころし。ゆへにゆへにゆへにゆへにゆへに
 や

一 昨翁曰。それたさるるんゆへにゆへにゆへにゆへに
 事柄がゆへにゆへにゆへにゆへにゆへにゆへに
 てい十三條の九入はゆへにゆへにゆへにゆへにゆへに
 事柄七事史書をゆへにゆへにゆへにゆへにゆへにゆへに
 を目とてゆへにゆへにゆへにゆへにゆへにゆへに
 史書がゆへにゆへにゆへにゆへにゆへにゆへにゆへに
 をれはゆへにゆへにゆへにゆへにゆへにゆへにゆへに

一 体元曰。十三條ハまにゆへにゆへにゆへにゆへにゆへに
 一 昨翁曰。孝孫傳記。孟子。周易。尚書。周禮。儀禮
 詩經。禮記。左傳。穀梁傳。公羊傳。爾雅。以上十三條

んまゝとあふ作と思定孝悌者信のたよひ伯
有那付はにおろそけあるとあつらふ事ども
らとひろくゆるやうに守て悔急なきれはあ
源さとりと用抄りうぞれおろそこととあつら
生付れぬ暗にけりやふ
仲え日孝強ま孝り此とむらりにて武公
のよりかかくふ士たるものぞ孝強一孝と孝
に孝子こといづくこねは

一昨着日それハ大なるあやまりにせて武公
孝りの一とにいてはあ孝り老翁のたよひか

やうさうとてくもあげと武公とハヤの孝り
たよひにせしむらるるごとくされせられけり
り人もの益とやものあくははねはあつら
まゝのりまねどもむさまたる人まわれたりや
むり人ともまも者たりとあひらぬ信におさぬ
一くあけりかやに悔いひらぬ信にせまら
けがもて孝りたよひに武公とハヤの孝り
つゝとのうらひなり孝強日まな始於事親
中干事系終於立力と日君子之立上や進思
盡忠退思補過將順其美匡救其惡故上下能

相親あひまや詩云心乎愛矣しよんしんわい遐不謂矣えんふわい中心藏之何日忘之しんしんざんしゆわん則武翁のといふにては武翁れ亦に武翁とせしむるハ祇ただのハ小の是とせしむるにひとしきるちり曾子曰我陳無勇非孝也わがちんむゆうひはけうは賢範のさハ是ハ孝也けんはんのさハこゝろ親と考ふ孝はれ感通なり君の是を親の是よしとせし廣大なり聖徳や志信ハ必孝子に門り也とのされむ孝徳のゆかりものハ必我陳にせし武翁とせしむる武功とせしものなりと一うのく孝なり志はれううありても我陳に

かのて武翁のたけとあらば武翁の孝なりとわびといふもわびまらぬ後なり程子武翁制に孝親を添入めされたりは是ハ孝をひくひ我親と考ふのとあらば是のハは付をあげにても皇君の用にまごころ知て身おのてさあひものなるものなりあるんよりて孝親とせし君に報我親とせしむるをあらせ血氣の勇と死して仁義の勇とを以てをさだめたりよりく徳として孝はれ徳的をぬんむべし

一 侍充問曰。衛灵公問陳於孔子。孔子對曰。俎豆之事。則嘗聞之矣。軍旅之實。未之學也。明日遂行。と。猶於不克之六孔子。軍法をばあるしめさひと存いひらる。

一 陣為曰。それハ心不夫なるゆゆそをひうてい何もと云あう。執中軍をわう。武と司家にかん極と時う夫のほてい仁義の心を本として。唯意の時よかるひて司家と仁義の陣と云く。聖書の軍法武篇あり。於ん徳心をかして唯意れ時にそむらと用る武篇ハ貪虎の陣

と云くハ。盜賊おいしんさされ取や。志うらに其云。知たうて我体とこの。今其房れ師とたぐハ。一。せんさめに陳ととりれらり。めく乃ごとくの人。に軍法と教たまふハ。たえハ。盜人にてごとく。教がごとく。君子ハ。人の悪と。我たまふぬによりて。それ悪んとハ。まうめがらんと。とあり。そたなく。我が一めして。禮と。ば。君子らり。軍法ハ。志うぬと。善こまふかり。其。実。知たまふらに。あ。は。其。云。けい。聖言と。司。家。と。て。禮と。司。家。と。學。於ん。と。ひ。お。ん。の。徳。と。の。ま。し。て。の。ち。軍。法。と。さ。れ。ら。る。

力はく指も今も。うらめさて人と殺ごとし。
 敵のさせらるる名は甚お棋の勝負にて
 考ふる下よにきこくめらてさばつたる
 されどもよにわひくはだぐくゆつらごと
 一 大形合戦の勝負めくのごとく大唐の名大お
 きがよふといはゆかたさやど。救ぬくともわまの
 く人の急て死さすすらハ大云や。張良韓信項羽
 法葛孔明などたりは人の名皆わらさ内侍合の
 一 しく勝さすさるいといもかもの上よそま何
 めされたりまはして味卒の功なくとも所に盡

ては味く下めら。勝利とては世にひなごま
 系比おたりさ名大お能や。大唐の名おめくのごとく
 目せよそも源の義経も初かの因縁もはて軍代
 とおで。ゆひくらまはして味卒の功なくとも
 本名後又ハ平家の一族となごの合戦は勝利と
 ぬ。目せにての比類たさ名大おめくのごとくたり
 倭漢。うらさため。とらく。考て。体。の。た。理。と。明
 る。一。又。この。た。え。わり。大。お。な。り。う。り。敵。ハ。病。や
 士卒ハ。菜。味。ち。り。硯。鼻。鼻。用。間。の。武。界。ハ。田。珍。乃。醫
 術。たり。奇。正。の。徳。敵。ハ。因。て。特。化。する。攻。補。の。菜

其痛に因りて死カシムに。寧はとがもあつたり大ねに
醫イふイるイがもあつねあがり療リョウ治ジすリるリがごとくカるル。
かりん。陳守の功とて依ヨりルまわし合カ我ガのてこ
てとあえおろし大ね。某ケルもあおあがり。病ヤク功コウの入
り。やぬきとりのごとく。寧はのまかりた大ね運
命メイの勢セイつり。よらふ歌ウタをうりにまきて勝利カチと
ゆふとりの威イとつる。は合カ食シうウさやうとく。入り
けりかたごとくしてまよりやとさ病ヤク人ニにとり
町のよ極キョクとして某ケル代ダイさかにとり。まきさるるこ
と。大ダイ云クニら張テ良ニ韓ハン作サシ頂トウ羽ウ志シめれぬ我ガ地チあ

のいしくまひとさつり寧はのぬりごとくゆへに
て百ヒャク我ガ百ヒャク勝シヨウの功コウとまは醫イ術ジュツまより極キョク口コウ診シの術ジュツ
と療リョウ治ジして百ヒャク病ヤクと療リョウ治ジ。起キ死シ回クワ生セイの功コウとそ
ろ。扁ヘン鵲ニョク念ニョウふフ恒コウ丹タン溪キをシとスとされ名ナ醫イのノと
一イツ寧ニョウはシまマても。費ヘイ通トウの持チ持チなく。良リョウ月ゲツにカさサ大
ね。醫イ術ジュツまよりひらくまひても。費ヘイ通トウの醫イ術ジュツ接ケツまよ
く。療リョウ治ジまよとつり。寧ニョウはシのノとスじジりリ
とにまよと。扁ヘン鵲ニョクかど。醫イ術ジュツまよと。療リョウ治ジまよ
つらひるまよと。やうとりの療リョウ治ジの。扁ヘン鵲ニョクのノとス
起キ死シ回クワ生セイのノとス人ニもあつまよとくクはハ大ダイ云

とて孔明のいたすつつかたぬ大なる一とあるに
なすれ合戦とれ蜀は至方勝利とて天下に威
勢と名とよもえ来蜀の運よるさあ孔明の
天を救つまを魏の大將仲達と対陣けうらに孔
明病死めされたり孔明は病死とけう蜀の至方
ら合戦とあけられ魏の至方孔明存せたり
とありし一とてえもさえて敗軍とて死せり
孔明は仲達とくくらとむむとていさや孔明
死後には仲達にたてけくかたぬ大なる蜀の至方
小なりとてう人魏の至方運命つとてあ終る蜀

とありし一とて魏の天下とぬく人項羽と程の
合戦れりあもくく人の知るるなり項羽と程
の運命は牛角なりかかるといふ程とありとぬくも
程は大方韓信と云人項羽と牛角なりかかるといふ
カも牛角なりかかるといふの向項羽のふつなりと
らあにくだめなるとの合戦皆項羽にあらたり
とくれども項羽は標悍猾賊にしてはたけくさる程と
實仁大愛れはあり人に張良と云文法を備へる
名ありあに項羽の力に才にたけく人孫子項羽
埃下子敗軍して鳥江ありてり害一終にる程

の天下とたりたりかへのごとくはたぬとては
又勢力運命の勝負ありあともよくは
夫のまへ

作之曰又は海勢力運命は牛角よりは勝負
いづれまへくは

昨菰曰それあひ基の勝負のごとくは
くたれ合戦よ天時地利の勝負ありは
通云は乃のや

作之曰曰も賢人英雄奸雄の光ありあ
は

昨菰曰又は合一のは海平かいは海平千万
人にもこれ神の不測の波ありと賢人と三皇
へ帝禹湯文武用孔子これたり賢人に一等
おとろりとも賢人と云侍尹侍従大なるは
子も思ふ血子孔明王陽明などとはたりはとよは
賢人に一等おとろりめも大なるは賢人と牛
角なりと英雄と云後仲樂毅孫子花張強
樊玲張巡岳飛などこれたり大なるはと
ましくよのやハ下くは海のとくはと奸雄と
云項羽韓信などこれたりは強云正成などハ日

中にての英雄なるべし。巧門をて八日中にての奸
 雄の株葉なり。一。聖人の文法は天地の神妙にお
 あり。よき教に神妙不測。度大用備。玄微及以。力なり
 賢人の文法も大方聖人の法体。照りけりぬれども
 神妙不測の位に。くす。英雄は人の賢人より。一
 おる。下りなれども。衆の老。法し。賢人より。一
 位おる。いそ。英氣あり。とあり。なり。聖人賢人英雄は
 三。ハ。文法あり。下。大小あり。と。又。も。若。連。も。志。こ。も
 是。法。く。る。世。にも。私。ら。世。にも。天下。を。ぬ。み。を。察。す。
 力。なり。奸。雄。ハ。敵。と。退。治。す。る。こ。も。人。用。し。ま。す。

多賢人英雄。おも。と。く。ね。ども。の。法。く。く。く。教。

かう。き。か。り。む。り。ん。途。ん。方。疑。あり。て。為。方。の。教。あり。

一。と。て。必。法。で。志。お。き。を。と。は。う。せ。ぬ。れ。は。必。と。み。ご。

聖。人。と。お。こ。に。拙。なり。聖。人。ハ。大。唐。よ。ち。く。て。ハ。け。も。く。

彼。は。賢。人。ハ。英雄。も。ま。く。世。に。ま。れ。あ。ま。は。世。倍。の。ん。

々。々。奸。雄。の。や。に。ま。よ。い。ん。の。奸。賊。と。忠。家。す。ら。す。

あ。ら。び。英雄。なり。と。わ。て。ま。る。一。五。と。ぬ。ま。ま。れ。

天下。と。う。む。れ。な。ま。あ。天子。法。候。た。来。ま。し。よ。く。

く。め。の。さ。や。と。く。く。一。て。法。用。ん。あ。る。と。ま。さ。る。あ。ん。け。く。

一。だ。と。て。奸。雄。と。ま。る。か。ひ。び。が。う。か。り。う。う。ひ。や。ど。

大なると申事にては奸雄ハたゞ一匹砒霜也豆か
どの毒菜のどと一毒菜はくどむくさ実症痛
疾子用也バその病とてやとてくさくさのうらりり
の強乃もささやうたつとてくさくさ味たりとん
にて虚症の病をば与れども良方に死するの三
そのどとくけ奸雄も敵と破滅と擒子すやん
たぐま一とてとてよき臣下たりとてはては
大西とあへて八國天下とあつたをいさるに
あどぬとてれ天下とてうたつたれ治たりの
砒霜也この砒霜とてくさくさ幸の用とて
とく奸雄とてなれやとんととく看録して

金銀たう物もかたはるのすさこのむをのな
そとせ情ありとて禮義正して奸雄のんといひ
やんにおしひんさる。後要はては若大とあへて
とあつたねまは必欄とてははるのなり。天子後侯
と申んま一とてはるさ。みなり

一 作完日。さや。たりと。さくさ。ハ。づれ。が。よく。御
なり。か
昨翁曰。きや。と。さくさ。ハ。城。室。と。用。大。さ。不。及。の
あやまりにて。づれもあつた。兵。ま。や。は。も。なく。さ。

くもなく中庸不剛の用にあらずとよりとん上
天子より下度人に至るまで戦用は王事大なり
ていつてんさ義理なるもむじこつひは
何と云ふもなるさむそくうにあらずこれ
免あるべき忠功もさかの急りも加具し家作
及下何おつてもかささめ成室とけり
あつてさうと世俗さようとり君子清白
のり通し似ころいりて凡夫はさくひさ
とがひるなりまことつるべもなるも
つるすわふさ義理なりともおとすさ

知りぬるわらさ忠切ありこれ
世家作徳をくつ下分際より見たり
すむさつひ費さでほと世俗さ
儉弱朴素のり跡にみちるなり
つる人見たりひてふとゆり
もさうなるも皆の徳れら
病もそ天下とくし
りて王事分別わらさ
体元曰るりくも
王事仕らん

作氣曰内と云ふは後とに独りあひておぼしき
系理と中庸と名付くは中庸不測の及ぶ
ありて測規とて制室と用ふは大正不及の私を
とていふてきとくとも名づけざるや
けくゆさくエマの仕るは先私欲のせがれとす
天乃の義理と理と舟と云ふと位とにゆくゆき
ておぼしきと云ふとて制室の及ぶと考ふる如
きまき制室とつふに云用私用妄費の三が
おん云用は天下のつめあのためにならるる軍役
云役の造用なり私用は飯食衣履官室書案の

まりりに抄候は僕なりとの造用也。妄費ハ何のヤ
おもたぬがごとく一悔の造用なり。此妄費ハ凡そ
いふられしごとく。君子のらよ、行きてりなり。中
庸不測の心法と守るは制室と用は私欲のき
くはすも、たごはるは清白。虚室にして私用を
云用と変す。同一天理とねまはる中庸不測の心法
と云ふ。凡そ、凡そ、心法に付、室と用は或は
らう或はまは私欲のけがれとせらるる云用
も私用も、或は妄費と變して同一心法とせらるる
く、御徳をさるるなり。

一 体之曰曰武大なる感ハテもあ老より人の守にあらん
ますハハれそ内産すか

一 昨翁曰私わがの一字に足らぬ私なる人があつたは随ついでや
幸座なる人のあつたは人の足尺とせ入は世のそ一
日とかりみは備ひかまふらん海をいしてはるる
りよハおこるるよとよとよと病を病も同もあけ
さちやハこのよきよりあつたはるるるるるるるるるる
りよもそとちりおとちりあつたはあひくらあるも
のよはハ人傷人ともちうけ志く一と切きさのきり
とあつたはあつたは刑とあつたはさすあひくらあるる

されハ功老なるの若ともうとちうづけば功あり
ても貴とあつたは罪なるに刑とくあつたはさ
の不義なるの罪法とさすは松のら根よりさか
こりあつたは夜夜花実なりあつたはのこくにあれは
法軍は皆さされて孫よとあつたはあつたはのなりあ
そめも。是地の念にあらんともさああかやうと
ちひあつたはあつたはあつたはあつたはあつたは
あつたはあつたはあつたはあつたはあつたは
一 体之曰徳侯御太まの尊に守かこりしてはるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

昨者曰。禮の一字。よくはあが。位たぐさのせうも。あ
 方は。より。懐する。魔んあ。のん。報と。くら。子と。を。其の
 中んと。あ。た。り。め。あ。も。人。と。あ。れ。と。り。あ。り。一
 り。す。意。無。あ。く。万。民。と。あ。り。れ。之。徳。侯。子。を。徳。と。せ
 ち。さ。び。あ。老。お。既。の。づ。ま。り。め。を。く。あ。り。れ。あ。が。あ。あ
 せ。え。ず。善。と。好。と。は。好。と。の。じ。い。く。あ。あ。を
 け。く。む。り。の。悪。臭。と。あ。く。じ。が。く。く。た。り。と。徳。と。せ。や
 大。舜。と。大。禹。と。た。れ。と。め。り。た。め。の。り。と。も。く。よ。れ
 づ。の。彼。の。の。云。り。と。も。同。く。味。ま。く。て。中
 庸。に。う。り。ぬ。と。は。か。り。て。用。た。ま。り。中。庸。に。う。り。ぬ

め。と。は。ら。あ。け。て。お。ち。い。へ。あ。ふ。孔。子。は。こ。と。何
 ら。て。け。く。の。ご。く。け。り。い。り。て。大。舜。と。禹。と。と。徳。と。せ。れ。と
 き。の。家。一。た。て。ま。り。と。く。秩。貝。と。一。た。ま。よ。周。と。且。ハ。モ
 涉。子。魯。と。の。と。り。り。て。始。て。周。へ。一。の。小。附。用。と
 且。我。伯。禽。曰。我。文。王。之。子。武。王。之。弟。成。王。之。叔。父。あ
 於。天。下。亦。不。涉。矣。然。我。一。沐。三。握。髮。一。飯。三。吐。哺。起
 以。待。士。猶。恐。矣。天。下。之。貴。人。子。文。魯。情。無。以。回。孺。人。は
 聖。戒。の。ん。あ。親。ハ。文。王。や。弟。兄。ハ。武。王。や。弟。今。の
 天。子。ハ。あ。が。あ。い。た。り。あ。位。ハ。攝。政。家。宰。や。天。下。に。あ
 と。こ。い。ぬ。と。の。た。く。あ。た。と。さ。き。位。た。り。と。あ。り。れ。と。

又徳ハ聖人との位ハ天子家宰にして、
その一ハ代ハ未代の子徳侯守あり。徳ハ
ある後グの一字に極あり。しるくく。体徳トクト
体之同曰。と母の徳トク主ハ日君と。あまきく。とらて。徳ハ
とれあらと。立身と云。よか。は。仕ハ。い。く。
昨菰曰。それハ士乃の。味。と。業。也。なら。あ。ま。ま。り。に
て。ハ。徳。あり。て。徳。良。と。云。一。業。切。と。い。げ。ま。く。位
と。あ。ら。り。知。り。と。あ。ら。ら。る。美。の。立。身。と。士。乃。
て。く。は。て。ハ。徳。も。なく。志。良。も。なく。業。切。も。なく。
い。く。ひ。か。さ。と。あ。ら。ら。る。い。く。ひ。か。さ。と。あ。ら。ら。る。

なり。と。か。す。と。う。そ。へ。て。身。と。志。あ。ら。ら。る。い。あ。ま。ま。
ハ。身。と。志。と。あ。ら。ら。る。乃。心。と。か。さ。へ。て。徳。と
た。く。と。志。と。あ。ら。ら。る。に。た。と。と。り。立。身。と。す。と。一。
あ。ま。ま。の。立。身。と。志。と。あ。ら。ら。る。い。あ。ま。ま。
て。あ。ら。ら。る。い。あ。ま。ま。の。立。身。と。志。と。あ。ら。ら。る。い。あ。ま。ま。
の。立。身。と。志。と。あ。ら。ら。る。い。あ。ま。ま。の。立。身。と。志。と。あ。ら。ら。る。い。あ。ま。ま。
て。あ。ら。ら。る。い。あ。ま。ま。の。立。身。と。志。と。あ。ら。ら。る。い。あ。ま。ま。の。立。身。と。志。と。あ。ら。ら。る。い。あ。ま。ま。
用。は。ま。ま。の。立。身。と。志。と。あ。ら。ら。る。い。あ。ま。ま。の。立。身。と。志。と。あ。ら。ら。る。い。あ。ま。ま。
古。來。た。ま。ま。の。立。身。と。志。と。あ。ら。ら。る。い。あ。ま。ま。の。立。身。と。志。と。あ。ら。ら。る。い。あ。ま。ま。
引。の。て。た。ま。ま。の。立。身。と。志。と。あ。ら。ら。る。い。あ。ま。ま。の。立。身。と。志。と。あ。ら。ら。る。い。あ。ま。ま。

分の初めまで抱たまふ。さざめく。兵と治軍と
けり。とけしせんとの思入。まもらん。さあらの
心入。まもらん。徳葛孔の。某あつ。酒巷。蜀の
先主の。自身。なま。幸なり。て。よび。おし。後ふ
ん。は。似て。まも。根。一。版。神。勝。よ。い。ま。も。人。お。乃。吹
味。わ。ら。う。に。し。も。さ。の。初。り。て。す。た。ま。ふ。の。ま。あ。う
す。た。た。の。さ。海。に。げ。と。なる。徳。士。の。風。れ。よ。い。て
目。く。き。こ。た。く。なる。こと。何。さ。ま。し。さ。の。なる。べ
体。元。曰。徳。大。の。氣。つ。ら。ら。な。ま。人。と。崇。敬。す。ま。ま
ま。に。より。士。の。風。さ。さ。な。く。あ。り。中。の。子。細。い。う。べ

一 師範曰。心。学。と。よく。極。る。士。ハ。後。理。か。う。く。し。て
初。終。を。ま。に。よ。り。て。世。の。飛。法。は。わ。か。ら。ん。は。し。ん
学。の。み。ぎ。を。ま。き。士。ハ。初。め。の。名。利。は。始。ま。る。もの。なる。と
時。の。士。心。学。の。み。ぎ。を。終。の。む。ら。あ。れ。高。身。の。上
は。なる。士。の。こ。れ。あ。く。と。ん。存。て。う。ら。あ。わ。か。り。て。毎。日
と。ま。の。と。ま。る。は。う。り。初。め。の。風。さ。さ。な。く。あ。り。て。ま。ま
心。味。と。古。風。を。時。お。わ。ら。ば。な。ま。く。ん。げ。す。め。は。し
き。徳。法。と。ま。る。は。み。む。さ。ら。う。さ。ら。て。く。ら。士。と。大。名。流
の。崇。敬。し。後。ふ。友。なり。ま。ま。の。政。た。よ。く。い。ま。ま
の。徳。士。人。さ。さ。ら。ば。士。勇。士。と。なる。の。倭。漢。も。た。ま

たれし。多。志。子。文。四。の。法。士。と。其。思。み。を。し。
友。た。き。て。り。士。と。ま。あ。り。く。宗。教。し。た。ま。ふ。を。
の。つ。か。な。き。と。あ。る。べ。し。

体元曰。士。乃。の。此。体。に。い。は。れ。る。が。よ。く。此。乃。此。乃。
此。乃。曰。儒。の。心。學。に。い。は。れ。る。が。よ。く。此。乃。此。乃。
く。て。ハ。此。体。正。其。の。義。理。に。あ。ら。ぬ。め。り。て。身。一。
甲。斐。の。性。善。ハ。文。學。と。も。め。ら。れ。武。勇。も。す。め。ら。き。
大。乃。く。く。と。も。其。儒。れ。れ。め。ら。れ。め。ら。れ。甲。陽。を。
軍。體。の。此。体。正。其。の。義。理。に。あ。ら。ぬ。め。り。て。身。一。
よ。く。此。体。あ。る。べ。し。

菊問答卷之四

一 体元曰。狂。者。と。申。ハ。い。ふ。さ。う。なる。人。は。て。は。有。り。や。
此。乃。曰。狂。者。ハ。一。体。の。廣。大。な。る。ゆ。え。と。ハ。狂。り。
と。い。ふ。も。い。ま。と。精。微。中。庸。の。密。に。悟。入。せ。ざる。
に。よ。り。て。見。性。放。乃。の。心。術。粗。粉。迂。濶。に。て。修。
け。買。お。に。逸。程。なる。を。の。か。り。大。唐。と。て。ハ。許。由。巢。
父。牧。皮。魯。哲。子。素。尸。莊。子。天。竺。と。て。六。教。迦。達。磨。
を。と。勝。越。さ。る。狂。者。たり。人。乃。生。付。あ。る。さ。う。に。よ。り。
て。乃。學。と。見。性。放。乃。す。る。位。に。上。中。下。れ。之。限。何。
ぞ。中。坊。六。聖。人。の。下。聖。聖。の。大。賢。なる。これ。ハ。之。限。の。

うらにて。才一階上の位なり。狂若ハ中切の下。才二
階の位なり。才三階下の位ハ。猶若なり。學問しても
比二階乃位よ。くくくくハ。俗學といふものなり。よく
く。休徳也。——

一 休文曰。おあぐハ。程志にても。巢父許由曾皙を
おその教乃法世。はくくくく。釈迦達磨の教
もそ。世にのこた。ハ。大唐日々。を流布仕ハ
何く。あそ。く。わ。や

一 昨爲曰。よき。ゆ。た。ん。ま。は。古。來。び。く。く。を。分。明
よ。き。あ。は。ら。た。る。人。ま。れ。た。り。た。と。ハ。聖。人。ハ。日

の光透徹するに。天竺に聖人の教。教を以て。よく
三才一貫中庸精微の密に。悟入する。こと。あ。は。
比。只。を。廣。大。高。め。一。偏。の。位。を。大。光。明。照。り。た。り。と。も。
ひ。定。天。竺。戒。の。風。俗。よ。り。く。教。の。法。を。立。て。流。生
を。教化。せ。れ。り。と。そ。ま。ま。ハ。大。唐。も。教。の。故。に。氣
運。否。塞。よ。り。く。聖。人。大。賢。も。た。ま。り。は。と。と。も。
の。下。に。ま。り。ひ。く。時。節。よ。り。天。竺。の。相。志。釈。迦。乃。法
始。々。大。唐。へ。く。ひ。り。ま。り。く。く。聖。人。の。目。見。光。年
の。時。ハ。輝。輝。然。る。中。く。ひ。り。ま。る。海。く。く。の。
神。授。ハ。許。由。曾。皙。よ。り。考。知。へ。く。と。ま。ま。ハ。日。本

より大唐へ道路初はつちうたる時とき。大唐に佛法ぶつぽふひるま
 るる言ことば申まをされば。うきをさうして日本にも流布りゅうふ志し
 する元來もとより釈迦達磨しやくかだまの法はふを志しあされし。心こころ根ねを
 氣き生せいのこゝして。あさき作ていとあられを。かきひ
 るくさ尚なほくくの寓言えうげんと立た勸くわん告こく懲ちやう惡ごのこゝあられが。
 一いっ派ぱ神しん清せいよよども。そ法はふ狂きやう志しなるよよは。天竺てんぢく戒けいの
 凡おほ俗ぞくとりのこゝして。ままなる教きやう乃なり法はふなるによりて。逸いつ
 狂きやう偏へん僻へきなるより。ちちなるより。まま上じやうももむむるより。
 の若わ。志し實じつを志しああの志し若わにああす。文ぶん一いつ貫くわん中ちゆう庸よう
 精せい微ゐの志し乃なりに。そむむして人じん極ごくのここ尚なほげげととなる

より狂者きやうしやの志しのここも。ああるより。日ひ乃なり光ひつつつよよにより。
 日ひ乃なり光ひつつつよよにより。日ひ乃なり光ひつつつよよにより。
 光ひつつつよよにより。日ひ乃なり光ひつつつよよにより。
 許きよ由ゆ曾そう哲てつなるより。伊い代だいは。堯ぎやう舜じゆん孔子こうし乃なり日
 のひひ乃なり平へい爾にかかららなるより。狂きやう志しの教きやうありありても
 白はく昼ちゆうの事こと乃なりももああれれ。信しん作さくして。吏し用ようするより。人じんか
 三さんたたよより。狂きやう志しもも教きやうととひひりりああんんとと思しふふんんあありりて
 教きやうの法はふををたたててずず。志しもも教きやうにに。末まつ代だいへへ傳でんふふるより。法はふをを
 志しにに聖せい人の日ひ乃なり光ひつつつよよにより。狂きやう志しの教きやうととああるより
 我われももいいふふるより。莊しやう子し。その狂きやう見けんををたたくくままく

つるまひんをく書とわらうて又唐の程志乃
教の始とあわらふれども聖人の日のひらりかく
せ居ひていまも程志乃の如くぬい下すその聖人の光
高きよりこれ程志乃の日の光なるやその教はハ
程志乃の如くひらり輝く程志乃の如くハ大唐の
を聖人の如くかたまひく。二文一貫中庸精微の
教さうんよとせなれらるるその日れ光かされ居ひ
る程志乃の如くなれり。天竺の如くハ終る程
一人の如くハ天竺の如く。程志乃の如くハその
よの戒をたれハ程志乃の如くハ元生に居る

り多。聖人中庸の法之迹にたれども程志乃の
さりりとなるものあれハ。まて程志乃の法と
迹をりて考とととあはよめり。元來程志乃達
磨の心根ハ勸告懲戒のためなるべけれども末
流ハハ言とやう。悪とよめり。今乃ハとほりある
り。淫走英色のこ。これらる末代それ流とく
ひは其のあやまりと云ふが。元來程志乃の身正純熟
せり。よよの如くその教法程志乃達磨の如くハ
程志乃も達磨もよとせられらる程志乃とてハ。聖人ハ
あひめされらる。必中庸精微の密は。終るて中

りの位も。むめさるべし。たとひ中りたむめされ。法も
許由者哲をそのこくにあつてかく世とす。はは
教の法をたてめさるましく。聖人も世まし。り
さぬ戒法に生あき。その法れひりまうたる。み幸
に似るる不幸はく。い

一 佛竟回大唐。天竺と六十万里隔る。い。と承作
そ。う。親。考。の。作。法。と。大。唐。乃。祖。考。の。作。法。と。あ。が
ひ。る。る。お。ま。は。は。く。一。は。あ。り。く。性。考。と。六。中。く。く
あ。い。い。り。く。

一 佛經回。し。む。と。佛。法。と。ま。と。以。條。評。判。す。る。あ。ん。首

の。凡。夫。の。こ。さ。に。て。い。と。は。さ。は。し。き。ま。う。ひ。う。く。い。
あ。乃。ち。う。ひ。佛。法。と。む。に。が。つ。び。ん。の。く。く。さ。ま。と。て。あ
中。く。乃。の。位。の。佛。乃。仏。乃。差。あ。と。并。ら。く。さ。う。は
あ。ま。じ。く。い。聖。お。と。た。泥。す。く。と。さ。う。く。親。考。と。ま。は
理。い。お。さ。う。め。ら。る。べ。し。と。世。界。の。さ。あ。の。つ。ろ。く。さ
あ。く。わ。り。し。く。さ。も。が。来。ま。さ。く。大。考。祿。乃。の。う。ら。に。用
舞。し。て。あ。ま。さ。う。く。く。へ。十。万。世。界。と。れ。ひ。ら。う。ま。う。く。い
と。あ。ら。に。よ。り。て。聖。滿。す。ぬ。れ。べ。し。と。も。凡。俗。が。あ。ら。と
と。も。も。その。ふ。れ。ら。く。の。は。が。来。東。回。一。佛。の。祿。乃。乃。ら。に
し。り。て。唐。出。も。天。竺。も。あ。お。も。ま。ま。こ。さ。あ。あ。ら。と。あ

ゆるむまのうら。を攻ちるなり。わくあるゆへに
 んの眼あきつらある。哲人の心はよりておろる。逆を
 すく。何事れも。かしく。同一体なり。心とを。例
 評判し。りたり。趣し。て。聖人も。賢人も。狂者も。狷
 者も。一。心。その。見性。成る。なれば。これ。心。より。親
 しく。至る。位。と。言。る。なり。莊子。と。釈迦。達磨。し。こと。
 を。作。は。は。ち。か。ひ。た。ま。も。その。見性。成る。なれば。か
 位。なる。に。よ。り。下。の。心。れ。位。なり。狂波。の。お。ハ。狂。極
 見性。成る。の。心。れ。位。ひ。と。ま。え。は。天竺。より。佛。如。來
 と。お。う。め。聖。人の。心。乃。く。一。心。大。唐。より。狂。者。と。ま。

くる中。い。下。り。下。の。心。れ。位。なり。狂波。の。お。ハ。狂。極
 の。心。は。か。さ。と。さ。る。後。の。心。あり。と。い。ふ。ある。一
 仲。文。曰。見性。成る。の。心。乃。位。と。親。察。す。る。こと。中。し。く
 凡。夫。の。及。く。こ。こ。前。なり。い。名。う。なり。孝。子。同。し。く。ま
 三。才。人。知。べ。く。い。や
 師。存。曰。同。也。拙。と。見。る。に。さ。る。心。より。下。と。見。お。ろ
 と。こ。こ。見。や。ま。く。し。て。お。ろ。なり。さ。ま。う。あ。ら。う
 上。と。見。お。ろ。る。り。の。心。か。く。し。て。お。ろ。あ。ら。う。ら
 も。の。あり。心。あ。ら。く。心。と。親。察。す。る。も。め。く。の。こ。こ。一
 聖。賢。の。心。より。狂。者。猶。志。凡。夫。れ。心。と。か。ん。ん。の。日

月の方物として一様とくたり。我若猶志凡
夫の心より賢賢れんやうむひんる。吾ふと
かせらたひまらる。生と死るに。とあしは。ま
るゆへに。吾儒の心。子外の子。回て。中り。ま
こま人。知る。行らる。の。く。唯。吾儒の。心。子。と。く
切。碌。磨。して。大。笑。明。性。の。位。に。至。ふ。莊。子。釈。也。
遊。塵。ま。ど。の。心。を。執。死。す。ら。り。白。登。よ。白。を
日。ろ。ど。く。な。ら。る。一。莊。子。の。学。問。と。き。つ。め。ら。り。ち
ふ。て。の。賢。の。心。を。わ。さ。ま。る。る。富。士。の。や。り。と
ら。り。の。巔。と。作。死。る。が。と。く。な。り。ま。ら。ゆ。へ。り

釈。の。流。と。く。じ。人。は。適。分。聰。明。か。り。人。あ。ま。る。病
ま。と。も。海。に。心。堂。の。心。と。う。と。く。ま。ま。う。ひ。て。我
る。心。法。小。乘。の。あ。さ。記。教。り。儒。の。極。上。の。あ。う。さ
説。に。さ。え。ま。う。と。う。と。云。む。我。ハ。釈。の。大。聖。孔。子。ハ。小
賢。行。り。と。云。む。我。ハ。心。法。の。典。聖。教。たり。儒。の。心
外。典。後。書。行。り。と。云。む。我。ハ。儒。の。心。外。典。を。な。ど。云
て。世。を。ま。ま。り。人。と。な。ら。る。一。ゆ。ぎ。と。な。め。ら。る。蛇
あ。ら。る。海。よ。む。つ。と。さ。ん。ま。て。何。さ。ま。に。は。れ。あ。ら。る
ま。う。に。世。に。人。も。あ。げ。は。後。論。する。心。を。な。の。元。祖。釈
迦。達。磨。の。心。も。そ。む。さ。ら。理。と。志。す。の。と。あ。さ

ありく。系満。於慢。たは。こと。の。さ。ら。う。く。さ。こと。え
 か。う。あ。れ。よ。け。る。一。さ。う。り。た。く。べ。歴。物。は
 かり人のめく。な。と。り。ま。う。ふ。る。の。あ。の。法。中。席。ふ
 そ。む。さ。う。に。の。さ。ま。法。の。の。根。が。う。と。す。と
 素流とくめ。系。子。の。理。味。と。の。ち。ち。え。く。学。者。の
 の。ち。と。そ。若。へ。入。く。かり。あ。り。地。を。と。あ。く
 そ。の。ち。た。ん。と。お。り。の。あ。慢。の。魔。心。と。ち。う。ひ。す。ぞ
 に。儒。と。云。佛。と。云。名。と。わ。せ。て。中。来。正。誨。を。息
 不。貳。一。其。の。心。ま。と。つ。と。あ。て。大。意。廖。廓。の。非。及。と
 こと。の。あ。は。何。れ。と。う。ひ。も。な。く。ふ

仲元曰。定生の。愛。と。子。く。は。仏。の。聖。人。と。り。三。位。や。と
 下。り。見。性。の。あ。り。や。志。め。り。に。仏。の。自。家。處。三。聖
 化。彼。其。冊。と。云。經。文。わ。り。げ。文。の。さ。の。秋。の。仏。わ。と
 以。く。仏。の。子。三。人。と。大。唐。へ。つ。り。老。子。孔。子。教。子。三
 聖。人。と。化。か。さ。せ。と。大。唐。の。前。生。と。代。な。し。後。生
 と。云。義。な。り。け。強。又。よ。て。見。れ。孔。子。教。子。も。皆。秋
 そ。の。れ。の。子。たり。あ。や。う。の。因。縁。と。わ。さ。ま。ふ。い。一
 て。孔。門。の。儒。者。み。う。り。に。仏。法。と。志。り。ぞ。く。あ。は。こ。こ
 の。あ。ざ。り。あ。り。と。さ。う。り。て。あ。を。け。る。中。の。何。と。そ
 か。や。う。た。り。因。縁。も。あ。る。う。り。ま。て。以。て。成

一 原教目ぞれはつらにひぐさる。海門仏さまと
 ぞ。さつめつ、井のうられ、楚大海とぞ。つとつ、後
 のごとく、仏なるよりとある。たきと。り、慢十分ならに
 よ、何と、儒者の仏法と弁ふと。いりて、お、慢の彩
 ん、甚一それとも、理のささには、く、つ、ひ、ろ、べ、さ、き、
 怪あるに、よ、何と、げ、く、り、ご、と、と、し、て、教するに、お、せ
 て、儒者の弁ふと。お、せ、く、この、かり、教、せ、す、ら、れ、る。
 相若されば、お、や、う、に、さ、さ、か、む、ま、し、ら、お、ら、そ、い、を、
 む、ん、の、申、く、お、ら、は、い、ま、に、あ、さ、ま、し、ら、つ、ら、い、と、
 して、教すると、る、お、ひ、比、丘、と、す、ら、る、城、よ、教、ま、の

深人なり、一、も、そ、つ、ら、い、の、ご、と、さ、さ、
 細く、人の、せ、お、り、又、母の、ご、と、の、ご、と、く、あ、れ、ご、と、
 母の、ご、と、に、た、ら、る、身、に、あ、ら、す、大、天、皇、上、帝、の、命、
 と、う、けて、天、神、地、示、の、化、育、し、た、ま、お、と、ら、り、あ、ら、
 深、神、理、と、つ、ま、ま、へ、ご、と、て、教、する、の、仏、力、と、い、く、仏、
 才、子、成、大、唐、へ、つ、ら、い、孔子、と、化、身、と、せ、め、さ、れ、ら、る、
 かつ、つ、れ、片、版、く、さ、つ、ら、い、ご、と、た、ら、る、一、仏、者、の、
 うち、に、仏、像、と、流、る、細、工、の、た、く、さ、ら、り、人、た、ま、あ、ん、
 へ、教、する、の、内、作、の、本、像、あり、ま、と、云、は、さ、し、あ、り、あ、ん、
 とも、云、へ、さ、ら、り、た、り、教、する、れ、仏、力、を、生、か、の、人、と

うもつてせらるるをいへば、あまを捕とやくと云い、
 ことありは、まじく教する妙の位、大唐の檀者乃
 佐ふて孔子より、うらうらにおたりたる。見性成るあれ
 ゐ、教の事子れ化力と云ふごとく、一。世に仏の
 皆寓そに、くわさるるものなり。されば、愚民とた
 かく、す、高きれ。等法とありて、儒乃と云うを
 くとおひる。沙門のん、おらるるに、あま、一。是の
 にあは、い、満の、おん、うく、て、種、れ、け、く、と
 あり。本、儒、事、の、文、を、れ、皮、膚、と、は、る、る、骨
 髓、の、理、味、と、も、病、と、さ、と、う、す、と、あ、に、儒、仏、の、法

除きて、持美内、おれ、る、あ、と、立、仏、と、さ、る、修、一、儒
 と、さ、る、る、や、一、じ、ゆ、の、お、ま、と、教、と、あ、る、れ、ま、
 他人と、貴い愛して、ま、親と、ま、一、と、い、ひ、ま、
 一。と、凡、ん、の、ま、う、い、お、く、天、子、と、く、く、ら、り、と、お
 ろ、う、た、は、ま、一、と、さ、る、や、その、子、細、天、神、地、示、八、系、
 の、文、母、を、れ、大、方、の、皇、上、帝、八、條、の、大、祖、と、ま、
 ま、い、け、神、理、を、親、れ、た、お、一、人、も、貴、人、も、親、也、
 儒、者、も、佛、者、も、我、も、人、も、世、界、れ、う、ら、に、あ、り、と、い、
 不、知、れ、人、の、形、を、ま、の、八、帝、皇、上、帝、天、神、地、祇
 の、子、孫、なり、と、さ、る、ま、儒、乃、と、さ、る、ら、皇、上、帝、天

林地示の律乃あれば人られ形もく儒乃とてあ
 り。じくは先祖父母の乃とてありて。今命とてあ
 かり。まへにも論す。いふ。人られ大始祖の
 皇上帝。大父母の天神地示。命とておられ。やまひ
 ち。律乃と。秋宗として。交用する。と。孝なり。と。あづけ
 ち。至極。要乃と。名づき。ま。儒乃と。名づく。これ
 教を儒者と云。これと。孝と。儒者。と云。これと。く
 きて。心には。は。も。り。か。い。お。こ。あ。よ。と。儒者。と。云。や。り。と
 ち。秋。る。は。乃。の。大。を。さ。と。り。あ。る。に。孝。者。と。て。さ。い。は
 ぶ。え。る。も。も。文。澤。飯。れ。楯。と。に。あ。い。梵。獨。神。の。

孝順。む。乃。の。法。と。流。め。さ。れ。て。孝。り。に。ら。く。こ。こ。人。は
 わ。な。れ。ど。も。孝。性。は。全。体。精。微。の。密。に。悟。入。る。ま
 じ。ゆ。ん。と。申。り。の。位。に。の。かり。め。さ。ら。く。と。あ。く。ら。び。す
 じ。儒。乃。と。い。ふ。な。れ。た。し。も。必。ず。修。交。用。の。意
 ち。の。孝。順。む。乃。の。法。と。流。め。その。父。れ。楯。と。に。あ。い
 ぬ。れ。ら。あ。そ。と。し。か。る。べ。し。あ。ら。に。そ。れ。流。と。い
 じ。孝。代。の。比。丘。は。慢。れ。お。ん。だ。く。ま。い。く。て。ま。親。と
 そ。あ。ら。り。も。扱。作。た。ま。理。と。わ。さ。ま。へ。む。ら。り。り
 ま。う。せ。て。儒。乃。と。い。ふ。あ。ら。は。先。天。に。あ。ら。は。一。き
 ま。よ。う。な。り。と。い。ふ。

竹之曰。莫又。許由ハ狂者なれども。堯舜ハこれより
 子之けたまはるべし。曾哲曰。堯ノ壞も。祖名なれども。孔子
 之れど。ありぞけたまはるべし。然るも。祖名より。程子
 仏法と。ちりぞけたまはるべし。程子あり。と。程子に。程子
 曰。老佛皆是正路之。蔡蕪聖門之蔽塞。闢之而後
 可以入道。又曰。佛氏之言。比之揚墨を為近。理所。以。其
 害為甚。學者當如。濼色義色。以遠之。不尔則。後
 焚入於其中矣。朱子曰。異端。虛無寂滅之教。其高
 過於大學。而無實。又曰。至於老佛之徒。出則。跡。迹
 理而大。亂真。又曰。程夫子兄弟者。出。具。有。取。去。以

續。又千載不傳之緒。得有所授。以存。又二家似
 是之非。わ。れ。じ。く。甚。く。あり。た。の。ひ。く。さ。め
 され。た。る。ハ。何。なる。有。ま。く。の。在。り。か。
 原翁曰。莫又。許由。曾哲。原壤。か。と。ハ。堯舜。れ
 子。れ。曰。堯。許。由。さ。お。ん。く。ぞ。れ。祖。父。の。あ。ら。じ。ひ
 ろ。め。く。世。の。さ。は。ま。げ。と。あ。ら。じ。き。上。推。祖。克
 念。作。聖。の。人。なり。と。い。ふ。も。の。く。あり。ぞ。けた。ま。は。ら。る
 かり。程子。朱子。れ。時。分。り。ハ。儒。乃。々。く。て。佛。法
 益。に。あ。ら。ま。り。未。流。の。比。丘。を。う。り。に。さ。り。ん。よ。り。ん
 せ。ら。ら。に。ま。り。せ。く。統。の。な。ま。り。も。と。む。い。さ。ら。る

造^うとあり法^りをたてて世^よとまどり人^びと淑^しし
 ずむにうめくやむとえはとわくのい
 ありそけむとて天下^{てんか}は世^よのまらいと解^とは
 りめ免^{めん}されうすかいら孔子^{こうし}。原^{げん}。讓^{じやう}の脛^{しん}と叩^{たた}て
 り絨^{じゆう}と裘^{じゆう}のきと祖^そ述^{じゆつ}して讓^{じやう}退^{たい}めされ
 り。按^{あん}。亦^{また}。ち。た。あ。く。佛^{ぶつ}氏^しの流^{りゆう}とらむと乃^{すなは}。評^{ひやう}
 由^ゆ。曾^{そう}。哲^{てつ}をよめとく。ふんよの。行^{ぎやう}。者^{しや}とほり
 て。世^よ。を。な。さ。め。く。び。ど。ハ。程^{てい}子^し。朱^{しゆ}子^しも。この。ま。り
 ぞけ。ひ。く。さ。め。さ。り。ま。ど。く。い。君^{きん}子^し。仁^{にん}。孝^{かう}の。心^{しん}。切^{せつ}
 う。あ。に。天^{てん}。下^かと。汚^お。濁^{たく}。も。あ。り。く。偏^{へん}。と。禽^{きん}。獸^{じゆう}の

域^{いき}。し。ら。れ。の。ら。と。あ。れ。を。な。げ。さ。て。な。れ。ら。ご
 一。讓^{じやう}。子^し。め。さ。れ。り。仁^{にん}。者^{しや}の。勝^{しょう}。む。と。この。む。め
 ん。と。儒^{じゆう}。と。な。ね。む。と。あ。り。あ。く。あ。く。は
 体^{たい}。え。日^{にち}。積^{せき}。多^たの。美^み。れ。法^{ぽう}。と。た。て。め。さ。れ。ら。ら。げ。さ。て
 物^{ぶつ}。告^{こく}。過^か。惡^{あく}。の。た。め。あ。り。ま。上^{じやう}。た。の。大^{だい}。き。と。勝^{しょう}。ら。人^{にん}
 あ。れ。ん。も。美^み。れ。は。さ。が。ど。い。世^よ。と。は。ど。り。人^{にん}。と。論^{ろん}。し
 禽^{きん}。域^{いき}。も。お。と。り。く。う。い。わ。の。ま。の。き。と。お。い。わ
 け。り
 昨^{けつ}。者^{しや}。曰^{いふ}。不^ふ。審^{しん}。む。も。く。い。易^{えき}。子^し。と。き。い。せ。ざ。れ。む。合^あ
 鳥^{てう}。也^{なり}。と。さ。や。ま。て。く。と。そ。れ。皮^い。膚^ふ。の。大^{だい}。き。を

ひりて中ゆ子日差之毫殺聖謬以千里この聖謬の
まへん法のまへんのまへん毛のまへんだがいぬれむのまへん後のまへん修のまへんの
のわやまらり千里のぢらひとあると云のまへんあり。ま
るる直のまへんに定のまへん修のまへんといくく精のまへん粗のまへん生のまへん熟のまへんさるる法のまへんの
まやりの考別のまへんとありおのまへんあされハのまへん佛のまへん位のまへん高のまへんあの日
らのまへん知のまへんぐのまへんてのまへん又のまへん人のまへん男のまへんハのまへん迷のまへん修のまへんの二のまへんよのまへんまのまへんりのまへんれのまへんりのまへん迷のまへん
まハのまへん凡のまへんまのまへんかりのまへん修のまへんとのまへんまのまへんハのまへん形のまへんとのまへん賢のまへん人のまへんの佛のまへん世のまへん長のまへん薩のまへんなり
ま迷のまへんくのまへん修のまへんとのまへんハのまへん一のまへんんのまへんにのまへんありのまへん人のまへん考のまへんありのまへんまのまへんめのまへんののまへんまのまへんめのまへん
くのまへんんのまへん凡のまへんののまへん光のまへんがのまへんとのまへんふのまへんしてのまへんまのまへんれのまへん教のまへんののまへんまのまへんりのまへん修のまへん
迷のまへんののまへんまのまへんりのまへんまのまへんりのまへん修のまへんののまへん切のまへんつのまへんものまへんりのまへんてのまへんまのまへんりのまへんてのまへん

くつのまへんまのまへんてのまへん無のまへん修のまへんののまへんまのまへんりのまへんれのまへんんのまへん月のまへんののまへん冥のまへん光のまへんののまへんまのまへんりのまへんてのまへん
まのまへんとのまへん修のまへんののまへんまのまへんりのまへんてのまへん修のまへんののまへんまのまへんりのまへんてのまへん修のまへんののまへんまのまへんりのまへんてのまへん修のまへん
妙のまへん受のまへん佛のまへん化のまへん力のまへん仏のまへんちのまへんどのまへんくのまへん名のまへんづのまへんくのまへんまのまへんるのまへん無のまへん碍のまへん清のまへん淨のまへんの
位のまへんとのまへんまのまへんりのまへん修のまへんののまへんまのまへんりのまへん修のまへんののまへんまのまへんりのまへん修のまへんののまへんまのまへんりのまへん修のまへん
新のまへん修のまへん志のまへんののまへんんのまへんれのまへん修のまへんこれのまへんかりのまへんののまへんまのまへんりのまへん修のまへんののまへんまのまへんりのまへん修のまへん
紅のまへん歌のまへんののまへんまのまへんりのまへん修のまへんののまへん冥のまへん受のまへんとのまへんまのまへんりのまへん修のまへんとのまへん定のまへん言のまへん性のまへんとのまへん定のまへん冥のまへん性のまへん
とのまへん定のまへん佛のまへんんのまへんとのまへん定のまへん仏のまへん性のまへんとのまへん定のまへん言のまへん性のまへんとのまへん定のまへん冥のまへん性のまへん
の心のまへん法のまへんののまへん強のまへん的のまへんなりのまへん三のまへん大のまへん系のまへんののまへん観のまへん念のまへん千のまへん七のまへん百のまへん則のまへんののまへん云のまへん案のまへん
皆のまへんののまへん修のまへん的のまへんにのまへん修のまへん事のまへんつのまへんりのまへん修のまへん得のまへん清のまへん淨のまへん修のまへん無のまへんんのまへん修のまへん念のまへんののまへんま
佛のまへんハのまへん不のまへん思のまへん受のまへんののまへん修のまへん事のまへんつのまへんりのまへん修のまへん毫のまへん髮のまへんののまへん按のまへん批のまへんとのまへんりのまへん修のまへん事のまへんつのまへんりのまへん修のまへん

あれし儒教よび得清浄の位の上は思儀
神通の力と云ふ、神理の灵气不二不二の二と
辨して一階向上格一の神化ありし神化のたよ
人と名づく玉女天真良背歎應の位なりし神
化は胎胎純熟半なりと五聖は六賢と名づく中
の位なり中りハ多きなり胎の言ハ得清
浄の上あり玉女天真良背歎應の胎胎をむ
まよよのく。後備り跡形人またらばこれを
大一天主の神と名づく。由巢又曾哲莊子
釈迦聖賢をどのに歎はる。此はまんとあり

六一得清浄の位ありてこれを玉物の中なる
山頂なりと定玉女天真良背歎應の胎胎をむ
とんざりにし。玉女歎應の清浄り胎胎
まよよのく。後備り跡形の胎胎あり
して神人良背歎應の天真り。まよよのく。天真り
そむくとんざりも。玉女歎應の清浄り胎胎の心なりり
のく。玉女と云ふまよよのく。玉女歎應の清浄り胎胎の心なりり
いめありされ。天真もわらば。玉女歎應の胎胎ありと云
まのかり。神人これと名づく。胎胎の言
も眼をつけて釈家すま。玉女歎應の胎胎あり

ずしてはめなり。はく、体素する人。佛も元気の
 の具えよととりて。至極と思元祐の具えよと
 唯欲せぬ。法をいへばとて元気の具え
 小伯するに、まに、人。精浦してまの逆相あり
 儒者八理を、精性とす。一、教に、至とす。これ
 欲清淨あり。法を得の、い。云々。及ぶ。元
 祐の具えよ。率も、い。まに、精。ぬりしてまの逆中
 正なり。儒者悟る。則其心。愈細。禅宗悟道。則
 心愈粗と。又、軒の、弁。ぬめされ。うらも、い。こと。なり。元
 祐、元。き。い。不。二。月。一。あり。し。り。こと。毛。董。の。心。

心を、い。まに、精。ぬりしてまの逆中
 もと、い。まに、精。ぬりしてまの逆中
 され。も、い。まに、精。ぬりしてまの逆中
 うらも、い。まに、精。ぬりしてまの逆中
 實れ、い。まに、精。ぬりしてまの逆中
 十九、い。まに、精。ぬりしてまの逆中
 なが、い。まに、精。ぬりしてまの逆中
 を、い。まに、精。ぬりしてまの逆中
 として、い。まに、精。ぬりしてまの逆中
 法清淨、い。まに、精。ぬりしてまの逆中

ころ毫髪カウモウの差さよりおろろり身みの欲よくのありの儀ぎ
なりぞ九流くわうりゅうとらめ未代みだいの比丘びく釈しやくの妙めうの性じやう
得う清淨じやうじやうの位ゐをぞれ化くわの悟ごゆことと誓ちかす
て徒たに釈しやくを教きやくありのわとせせたるなり
とて。愚ぐ慢まんの邪じや心しん凡はん又またらしあつてさうと
なり。年ねん舌ぜつをたく悔くわいくして明めいりためいに勝かつじ
のをこの愚ぐ民みんを術じゆつしてさうげうとせしむ。勢せいと
なり。ひがれなをさあぐ我慢くわんの偏執へんしやくとて守まも
りあつる争あつるの貪あつ夫ふの時ときと争あつらりし浅あまりと
らあに佛ぶつ志しハ大だい定じやうと超ちゆうかすまば夫おつしあ

いなきにふく父母ふぼ兄あに長ちやうとし。茶ちや茶ちやする禮らいなり。
いなきにふく父母ふぼと稱しやうせす。父ふ兄あにとやまのす。苦く辱じやく
禪ぜん師しの母ぼとらせると。三さん美びは。大だい孝かうなりと。かめ或ある
三さん綱かう入にゅう常じやうの及および。生せい幻げんのりれ。とある。あして善ぜん
提だいの種しゆとある。法ほふ行かう。術じゆつ傍ぼう。或あるは。至し親しんと云い
し。この極ごくを。此こゝ西さい人にんよても念ねん仏ぶつの功こう力りき多た。必かなら極ごく
系けい淨じやう女にょ。性じやう生せいするあつ。若わか海かいせり。さうか。さうく
。極ごくに。い。し。む。を。巧かうあり。寓う云いと。法ほふく。人にん心しん
。まじり。會えん成じやうの。い。世せ貴きの。ま。ま。げ。と。ある。よ
。奉ほうて。め。さ。う。う。妙めうの。ご。く。なり。は。う。く。ま。ん。さ。

の過未流比丘の選なりと之を根中ハ叙する其類の
高のよりあるなりとも方り叙するのん化を得得
淨の徳ハよりいふもありの天を以てりり
系法と云りぞけむ其れがあらぬなり昔原
壤一之ヲ執者ハ孔子の旧友なり後ハ原壤復
た其れをくそあつぞくをさありき孔門の徳
賢絶交ありルハ全にその行りて輕ありなれども
孔子故去まは母失其為故やとのまうひて終
交とだらう悔んば交と絶たすべし原壤夷
俟と云ふ為械とのるゆゑはき終へる杖より

原壤の腫をたふしてはまゝの原壤おびやしの
亦中まこと信く考ふるに交と絶たまはざり
吾不得中行而与之必在侷乎とのるゆゑは
一腫をたふしてはまゝの原壤おびやしの
中りの位へ後極をたれんとあ不骨の發海から
をいふこれハ洙泗の流とくめ其る儒ハげ不復を
憲章して叙するのんとは好しとありき
けむとて其山の糟粕を酔てたはこと内りあ
ゆ門を變化して儒門良骨歌夜の學志とあり
まこと仁氏の一語かんて

等々してゆく通じわりの定まりたるものなり
 平素不易のなるを後に是と天志と云や佛
 の孝老乃修ひしや山八かひされどわく
 等々して通ぜざるすしれのなるごとく
 と本名をわけそのなりごとく嶮山
 人乃のど城くざる亦たのぬは是と
 秘学の同心乃後れらるる山をのなる
 されどそれむ。まゝ下れりけりごとく
 ともわく下のるまにすのなりやと云
 一のなるごとく各別やと云佛
 徳あり

仲之曰又戒いふ者いふらひたれども
 と力なりと。仏者のつらばさ
 けり
 作有日ぞれはあゝぬ京物
 天竺地亦の大徳人
 一徳ありたる
 の天徳やあると一事に
 戒の法とされど
 心れども争ひたりと
 辨を端するに
 金と銀と
 名はらひ
 争ひたりと
 争ひたりと
 争ひたりと

らぬ人、迷へりてとて、仁者の人を殺さざるべし。
嗚呼、と云ふ。天理、善の心、を殺さざるべし。
殺す、仁の全体、打ちとらぬ。殺生、戒と仁なり。
と云ふ。是に似たる、非と云ふ。のあり、仁、天神地
の人物、と、衆、盲、神、を、め、て、人、を、慈、愛
の、神、理、なり。と、云ふ。親、仁、氏、愛、抱、生、理、の、時、に
そ、じ、さ、す、一、系、一、本、と、も、云、ふ。仁、者、の、考、を、
も、天、に、と、て、それ、を、悪、逆、と、し、生、理、と、云、ふ。多、
く、仁、に、似、た、る、仁、と、す、り、ち、り、殺、し、不、殺、し、の、
多、く、仁、に、似、た、る、仁、と、論、ず、り、い、お、う、た、る、凡、夫、

の、り、の、方、り、殺、す、衆、科、なり、て、殺、す、仁、に、
殺、す、衆、科、なり、て、あ、ら、う、ま、た、神、の、生、理、と、
そ、こ、あ、ら、う、の、科、なり、と、考、と、ん、と、云、ふ。仁、に、
不、仁、や、志、ら、ん、今、佛、氏、の、殺、生、戒、の、こ、も、み、む、こ、
ろ、と、殺、生、を、れ、ま、し、て、人、ら、と、云、ふ。親、と、云、ふ。と、
悪、人、の、こ、も、云、ふ。不、殺、と、云、ふ。と、云、ふ。仁、に、似、た、る、
不、仁、に、似、た、る、悪、是、に、似、た、る、非、と、云、ふ。と、云、ふ。の、
を、の、と、云、ふ。正、善、の、神、乃、よ、う、と、云、ふ。仁、に、似、た、る、
と、義、なり、と、云、ふ。仁、に、似、た、る、義、は、天、理、の、科、なり、
人、の、果、の、科、理、天下、の、故、に、感、通、して、天下、に、替、

在りてはなれは不盗の教達一つを以てくさめ度
 大の交わりと云はみり山を富士山たりと云ふこと
 ろに邪淫戒と禮なりしと云はれり。志うれども禮
 天徳の言にして人ら恭敬持するの邪理天下の
 故に通して上宗庶朝廷下民間のむとで
 人倫の交り冠昏喪祭飲食軍陣等あり乃
 天理儀則と履おこあも宰られは不邪淫一色と
 禮なりと云ふ。二のめのもとは海と云ふことの上
 いまむしり不の邪淫天理のまよるをいひこし
 細いその妻一人のむとがかりかんとく邪淫いふらふ

死にむしりくむとがくさめりりりりり。儒者のけいめ
 庶人むら。妻一人の定や天子より士までは位に
 分るお毎いよめと婦人。世婦。妻妾の負教。自
 身の天別をく。妻一人の定にわらひ子細は振振
 孫お孫のむらまは婦人。よ子のたきことのおるあこ
 ひとらりその位これ負教れ外は邪淫なり。その負
 教に定する。妻妾もくも交ま。さけん交とバ。邪
 淫と戒ひるなり。海にお毎一たる。義理い。さう
 を注の眼とするなり。それを活法と云や。さくま
 お家不淫。戒とこれハ。す。もた。い。あ。は。い。ま

ものあつゝ飢渴の人よ飲食を戒むるにこそあつ
てあつゝゆへに未流の比丘嬖欲びくはくびやくこそあつゝいふて
男女和合のどかりあればよや六便ろくべんなるべかりありて
無陰陽の地不和合の交まじりもく執著しやくしやくの形かたち嬖欲びやくなり
例の家れるるこそことと巧たくみなり一匹ひとひきと圖ずして龜欲きよく
のうりりこそ一ひとおひちみと人ひとと女の形かたちも似にせとく兜たう喝かく
食くらまでまくと和わ高上人かうかうじんの妻つまとまをりしとて後あと
まゝとも申まをく云い説せ及およびや元もと来きた不ふ嬖び戒かいの法はう王おう
聖せいよとむとさだるよとく未流みりゆうかくのどく畜ちく
生なまいもあつゝりる作さ法はうとかりや文殊もんじゆの始はじめてけると

用もち用もちめされしるをて佛ほとけ者ものの云いかりりたるをれん
文殊もんじゆ守まもてい菩薩ぼさつの果はたけをばつる人ひとをれどかく法はう
るましき欲よくんいあつゝままきさるまかゆや例れいの家いえ入い
造つくえかりと一ひと夫婦ふうふの別べつはは来きた智ちは属ぞくしつる
ものかりとるとと禮らいかりとるとはは儒にうると案あん案あん肉にく
かりとるとと酒しゆ戒かいのあつゝ所ところかりとるとありかりとる
一ひと高かう戒かいを修しゆたりとるとハ可うや志しれと修しゆハ
天てん法はうの玉たま傳でん人にんると実じつ無む常じやうの神かみ理りもまま百ひやくり
の振び申まをして自よ古こ皆みな有あ死し民たみ生なま修しゆ不ふ立たたのなるふ
やと廣かう大たい親しん切せつ至し親しんかりとると天てん性じやうよよ不ふ高かう修しゆ一ひと色しきとあ

あつる九牛の一毛と全牛に當るにあつては
飲酒戒を知らざらんはむらさきもみなりなり
ためく凡夫の酒は酩酊してんらく威受れ
るを刃で戒するもくみんちそれの飲者の徳
ゆて酒のさぐあつたはたふ合意よむせきる
人の命といひよとあはれ不及礼の傷はよふ
て酒と司かは賓主の歡と合肌膚とてあつて
気血と活し百業は長とも云へしをけ上糸祀必利
のむとあれは偏よ禁制とてふものにあつては
の是れとくわさまらと智といはむは偏

まひぐさつる戒とたをらして智者と云はるや。そ
上智は天徳の具ありて人なる。是れは其の神理を
あつて善徳と奉ずる。神理をれば飲酒戒を
かりと云はる。おかりと云はむとくかへのことく
ゆるいぬと戒とあつものかりとひく。あつと
そつらひは痛かりといひんや。あつと云はるは
あつて佛者の法は夫々の教解なり。向ふは理
かあひつらむ。あつと云はむとくかへのことく
いよつと死法とかりて受用するもの。あつと云はるは
繫縛せしむとく。あつと云はるは

